

で生まれた子供 9720 名 (I 群) には 31 例、1986 年 4 月 27 日～12 月 31 日 (II 群) までに生まれた 2409 名には、1 例の甲状腺癌が認められ、全例乳頭癌であった。1987～1989 年に生まれた 9472 名 (III 群) には甲状腺癌は 1 例も認められなかった。甲状腺結節は 148 名に認められ、有病率は男女とも I 群が最も高く、II 群、III 群の順に低下していた。甲状腺疾患の頻度は一般に女の方が男よりも高く、ある年齢までは年齢と共に高くなる傾向にあるが、本調査の甲状腺結節についても同様の傾向が認められた。性、年齢、出生時期を共変量とするロジスティック回帰分析によっても、チェルノブイリ事故前に生まれた子供の方が、事故後に生まれた子供よりも甲状腺結節の有病率が有意に高いことが示された。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
緒方裕光	健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究調査	第7回地域保健のためのインターネット研究会、東京.			2002.11
緒方裕光	健康危機管理情報の網羅的収集と評価	健康科学総合研究成果発表会「健康日本21と健康危機管理について」、東京.			2003.3
岡部信彦	海外における感染症の情報	臨床と研究	79(4)	611-4	2002
岡部信彦	日本の感染症サーベイランス	(図書)小児科学		689-93	2002
岡部信彦	わが国における感染症サーベイランスシステムー感染症情報の収集と還元ー	(図書)感染症研究の新戦略ー阿蘇シンポジウム2001ー南山堂			2002.7
岡部信彦	生物テロの危機管理と医療従事者	総合臨床	51(10)	2728-32	2002
岡部信彦	輸入感染症と感染症法におけるサーベイランス	小児科診療	65(12)	2025-31	2002

厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究事業
健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する調査研究
(H14-健康-003)

平成 14 年度 総括・分担研究報告書

2003 年 3 月 31 日 発行

主任研究者 緒 方 裕 光

連絡先 国立保健医療科学院研究情報センター

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

TEL 048-458-6209 FAX 048-469-0326

印刷 昭和情報プロセス株式会社